

平成22年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム

取組名 社会福祉施設及び関連機関への就職支援のための総合的な取組

22年度の取組に対する成果について

専門的な知識・技術の習得		
国試対策特講 月例テスト	実績	過去問題集等を使用し、週1回ずつ実施した。 国試対策特講の効果を測るため月1回ずつ実施した。
	成果	2年生を中心に次第に国家試験に対する心構えや姿勢が形成され、12月頃から月例テストの結果にもはっきりと現れるようになった。また弱点などは特に課題の反復練習をすることによって次第に克服されるようになり、力をつけていった。しっかりと取り組まないと遅れていってしまうという意識が形成され、学習意欲が向上していったことで欠席も減っていった。
前年度就職先 アンケート	実績	9月に実施した。27箇所中25箇所から回答があった。
	成果	卒業生の様子をつかむことができた。また、施設側からの要望・指摘もあり、在学生の指導に役立つものとなった。次年度以降の指導方法やカリキュラム等にも参考となるものがあり、教員の意識改革や授業改善にもつながった。
基礎学力養成講座	実績	問題集等を使用し、週1回ずつ実施した。
	成果	高校時代にわからなかった内容も理解できるようになったとの学生からの声があった。公務員試験などの公的な試験における一次試験合格者が例年よりも増え、最終合格者も増加した。
基礎学力テスト	実績	基礎学力養成講座の効果を測るため、1年生は年間5回、2年生は前期に2回実施した。(講座未受講者も含め全学生に実施)
	成果	個人の基礎学力状況をつかむとともに学生指導に役立てることができた。
卒業時共通試験	実績	2月に実施し、卒業予定者64名全員が受験した。
	成果	卒業予定者64名中62名が1度で合格基準を越えた。不合格の2名については補習を徹底し、1週間後の再試験にて合格となった。通常の授業の成果や国試対策特講・月例テストなどの効果が大変良くあらわれていた。

## 「仁」を体現する人材養成

ボランティア活動	実績	社会福祉施設にて原則週1回ずつ実施した。その他に依頼を受けて行なうボランティア活動も個人の希望にあわせて実施した。
	成果	本学のボランティア活動は、現場の中にある程度まで入っていった活動であるため、学生たちはその中から様々なことを経験し、建学の精神につながる心や福祉専門職のやりがいについて感じ取っていたようである。
振り返りレポート	未実施	2月に実施予定であったが、3月15日の事例研究発表会の後のほうが1年のまとめとして、より良いのではないかとということになった。しかし東日本大震災の関係で事例研究発表会が中止となったため未実施となってしまった。
基礎(総合)演習	実績	年間計画に基づき、学生生活・建学の精神・進路指導等を中心に週1回ずつ実施した。 6月に実施した1年生対象の学長講話では我が国の介護業界を担う人材として立派に活躍できる介護福祉士となることを熱く語っていただいた。 施設職員講話では、お世話になっている老人ホームから2名の職員を招き、介護福祉士として働くことや介護という仕事に対するやりがいなどについて具体例を挙げながら話していただいた。(1年生対象) 卒業生講話は12月に実施した。卒業後1年～2年程の学生と年齢の近い卒業生を3名招き、学生時代の思い出や反省、介護福祉士としての現職の経験談等を話していただいた。 1年生に就職についてより具体的に考えさせるために進路希望調査を1月に実施した。このとき意欲付けとして2年生の採用内定者による講話を先に実施し、その後に調査を実施した。
	成果	日常から学生たちに親しく接している学長からの講話は、心に響くものであり、事後のレポートからも立派な介護福祉士となり、しっかりと取り組んでいきたいという意思を読み取ることができた。 施設職員講話ではより実際的な話をしていただいたため、学生たちの介護福祉士に対する理解と意識付けに効果があった。 卒業生講話は、1年生にとっては自らの就職を身近にとらえることができ、次年度への準備の1つとなった。 1年生の進路希望調査では就職に対するそれまでの様々な指導もあり、また直前に行なった2年生による採用内定者講話も影響して、ある程度明確な希望が出されており、就職希望先が書かれているものもあった。 9月下旬に受けた第三者評価により、建学の精神が学生に理解され、活かされているとの評価をいただいた。
導入教育	実績	12月・1月・2月に各1回ずつ、入学予定の高校3年生に対して介護福祉士という職種をより具体的に感じ取り、入学後スムーズに学習に取り組めるように専任教員による講義・演習・グループワークなどを行なった。最後にはグループごとの発表も行なった。
	成果	事後のレポートから入学後の意欲と介護福祉士という仕事の理解につながったことが読み取れた。

## 就職指導

就職指導	実績	<p>2年生には全体指導として「就職活動の手引き」を使用し、10月までは週1回ずつ実施した。11月からは個別指導中心に切り替えた。</p> <p>就職活動上のルールや手続き方法、履歴書の書き方等を具体的に指導した。就職情報配信システムの運用については、全員に利用方法を実際にパソコンを使用して具体的に説明し、操作訓練を行なった。</p> <p>1年生に対しては10月～1月に計4回実施した。福祉の仕事についてこれから具体的にどのように活動していくべきか、内定に至るまでの道筋、社会福祉施設への就職についての留意点、試験内容や傾向、現2年生の状況など、より具体的な内容になるよう意識して実施した。</p>
	成果	<p>「就職活動の手引き」にもとづき、具体的に指導を行なったことから、就職試験に関する大きなトラブルもなく、比較的スムーズに進めることができた。個別指導は担任やキャリアサポートセンターの職員により細かく実施されたため、また双方の情報のやり取りもスムーズであったため学生の希望に沿った相談を実施することができた。</p> <p>就職情報配信システムの運用により情報が迅速に伝わり、いつでもパソコンを通して情報収集できるようになったため、学生とのやり取りも密になり、就職指導に十分に力を発揮した。また、そのことに伴って、キャリアサポートセンターの利用も大変多くなり、学生への対応も、より早くできるようになった。</p> <p>1年生には就職に対する意識付けの一つとなり、以後のキャリアサポートセンターの利用増からもその効果が認められた。</p> <p>卒業者数64名、うち編入学者等進学組15名を除いた49名全員が社会福祉施設及び関連機関への採用内定となった。</p>
個人面談	実績	<p>2年生に対しては4月～5月に就職先に対する具体的な面談を実施した。1年生に対しては後期から実施した。学習しやすい環境を保つために学生生活全般について相談を行なった。</p>
	成果	<p>2年生については実施時期が丁度実習前であったことから、領域や職種など、より具体的な内容を含めて実施した。このため1人ひとりが自らの希望をある程度明確にすることができた。</p> <p>1年生については生活上の悩みや不安を解消することに努めた。また学年会議等で教員同士の共通理解をしていたこともあり、教職員全員でサポートする姿勢ができていたため退学者もほとんど出なかった。</p>
三者面談	実績	<p>2年生に対して7月に実施した。個人面談よりもより具体的に受験予定先まで保護者を交えて実施した。</p>
	成果	<p>実習が終了した後の実施であったこともあり、より具体的な相談となり受験希望先や以後の活動予定などが明確となった。また、保護者の理解と協力もより得られる機会となった。</p>

社会福祉施設訪問	実績	前年度就職先については、予定した16箇所中14箇所の訪問を実施できた。また、2年生の就職希望先については、延べ26箇所ほどの訪問を実施した。
	成果	前年度就職先については、卒業生たちの就業状況を確認することができ、また施設長様からの要望等も聞くことができ、今後の学生指導に活かすことができると考える。実際に2年生たちには就職指導の時間を通して話すことができた。2年生の就職希望先への訪問については、今年度の採用傾向や情報なども手にすることができ、学生たちに最新の情報を伝えることができた。
マナー指導	実績	2年生には、就職試験における面接を中心とした内容で6月・7月・10月に計5回実施した。1年生には、就職活動における基本的なマナーについて11月と12月に計3回実施した。
	成果	2年生には面接試験の具体的な指導であったため、実際の面接試験の際に役立ったとの学生からの報告があり、内定状況にも反映された。1年生には就職というものを意識する良い機会の1つとなった。
昌賢学園就職面接会	実績	10月に予定していたが、採用先の要望などから1ヵ月繰り上げて本学のアリーナで9月に実施した。残暑厳しい中、79法人の参加があった。
	成果	学生たちと採用側とのマッチングの良い機会となった。実際にこれを機会に採用につながった学生たちもいた。また、採用側も本学の学生たちについて、より理解を深める場となったようである。1年生も全員参加した。仕事に対する姿勢や求められている人材等について学ぶことが多くあったようであり、アンケート結果からも次年度の自らの就職に大いに刺激となったようである。